

## 第2回流山市子ども・子育て会議部会

日時

平成31年1月28日（月）13時30分～15時

出席委員

吉川委員・岡本委員・櫻庭委員・手塚委員

事務局

熊井子ども家庭課長・秋谷子ども家庭課室長・倉本子ども家庭課主任主事

議題

- (1) 第2期子どもをみんなで育む計画の策定について  
(子育てワークショップについて)
- (2) その他

資料

- ・ワークショップの進め方
- ・子育てワークショップシナリオ

議事録（概要）

《事務局》

定刻となりましたので、ただ今から、平成30年度第2回流山市子ども・子育て会議部会を開催させていただきます。次第に従いまして、吉川部会長、進行をお願いします。

《部会長》

今日は第2回の部会において子どもをみんなで育む計画の子育てワークショップについてどの様に進めるか皆さんのご意見を伺いたいと思います。では、事務局より説明をお願いします。

《事務局説明》

《部会長》

では、日程について考えていきたいと思えます。  
事務局からの提案日として、3月30日（土）午前・午後と4月13日（土）午

前・午後の案が出ておりますがどうですか。

《岡本委員》

これは4ヶ所一斉開催ですか？

年度末年度初めだと集まりが悪くなる可能性もあるのではないのでしょうか。

《事務局》

それぞれ2ヶ所ずつです。

《会長》

1ヶ所は大体2時間位ですか？

《事務局》

時間としては約2時間ですね。

前は30分位、新制度の説明もありましたので、2時間はかかってないですね。今回はワークショップとしてやるので、たっぷりとグループワークができるかなと思います。

《手塚委員》

平日はできないものですか？

《事務局》

休日の方が来やすいのかなと思ってましたが、平日開催は全く支障ないです。

《手塚委員》

別候補を増やすなら平日があってもいいのではないですか。

意見を出した後が知りたいので、ワークショップ単日で終わらせるのではなく、レポートする場所を設けてもいいのではないですか。

意見を出す側のメリットがないと、やる意味がないです。

参加したい理由として、活動しようと思っているところとのコラボレーションとか、こんな意見を持っている人とのネットワーキングが出来るなど、自分の意見が反映されるのであれば、参加したいという方がいるかもしれないです。

前はどの年代が来られたんですか？

《櫻庭委員》

子育て中の方ですね。30代半ば位ですかね。

《事務局》

前回はお声かけ頂いたということもあったので、南流山・中部においては同質性を持った方々が来るという感じでした。

今、思えば支援する側の人達がきていたかと思います。

《部会長》

すでになんらかの活動をしている人たちが自分のところの人達を連れて、ここに来て意見を言ったらどうなのかということに来ていた気がします。

《事務局》

そういう方々に問いかけしたということもあるんでしょうね。

《部会長》

ここで意見を言うといいよということで、来ていたような気がします。

広報掲載しても来る人が少ないので、結局、会議委員等が近い人を誘って、せつかく意見を言うのであれば、自分たちの意思を伝えなければというアドバイスをもらって、意見をそこで吸い上げられてという形で始まったのではなかったでしょうか。

本当は、支援センターなどへ行って、いつも行き慣れている方たちから聞くということもありかなと思います。

《櫻庭委員》

前は父親も見えていたような気がします。

支援者よりも当事者ではないでしょうか。

《部会長》

おおたかの森などは父親が来ることが多いかと思います。

エリアによって開催時期を変えるとか、大々的じゃなくても、ミニワークショップとして、支援センターの開所時間内に意見を聞くということもあってもいいのではないかと思います。

《岡本委員》

来園の多い支援センターはどこですか？

《部会長》

かやのき、わらしこ、松の実は多いです。

この3か所で開所時間内に聞けたらいいですね。平日しか来れない方の意見を拾うことも出来ますよね。

《櫻庭委員》

父親の意見を聞きたい時は、土曜日にすればいいですね。

《事務局》

支援センターということであれば、ヒアリングと同時に直接意見を言いませんかという部分に集中して、ミニワークショップという可能性は、あるかなと思います。

同時に、支援センターに来られる方は平日なので、手塚委員がおっしゃた、平日にご協力を頂くことができるのではないのでしょうか。ただ、子どもさんがいらっしゃるので、そこをどうするかですが。

《櫻庭委員》

支援センターの職員が協力してくれれば出来るのではないのでしょうか。

かるがもので実施しているティータイムはまさにそれで、テーマを決めて話し合っています。ただ、他の支援センターがやってくれるかということ、難しいと思います。

《事務局》

エリアを考えないといけませんね。

《部会長》

全支援センターは無理なので、現在、支援センターに力を入れて活動していて、支援センターの委員の方も協力的なところで実施するのも可能かなと思います。

《事務局》

成果という部分をどういう風に伝えていくかというところで、今回の冒頭で、前回はこういう意見を頂いて、こういう風に計画の中に反映させていますという事は伝えられます。

《手塚委員》

「こういうステップを踏んで、色々な意見を聞いてこういう風に反映しました。その中にあなたの意見もありますよ。」と言われると、納得感もあります。

前回どうだったかで、1年後、2年後に向けてこうしてますというような形で攻めていったらいいと思います。

今回のターゲットは誰なのかをはっきりした方がいいのではないのでしょうか。

活動しようとしている人や活動している人の方が、活発に意見を頂けるのではないのでしょうか。

《事務局》

日程の件ですが、平日の午前中・3月30日に設定をしておりますが、前回をみますと、地域によって人数にばらつきがあり、東部地域は非常に人が集まりにくかったです。集客という意味で、ご意見や工夫があればお伺いしたいです。もしくは、東部地域に近いエリアで、兼ねるという部分があってもいいのではないのでしょうか。

東部地域のワークショップをやらないということではなくて、ヒアリング調査などはかけていくので、やり方としては網羅していますが、いざ、ワークショップとなったときに、人が集まらなかった場合、実施した方がいいのか、南部と東部の中間で実施して、両方の意見を吸い上げるという部分はいかがでしょうか。

《岡本委員》

前はどこで実施しましたか。

《事務局》

向小金福祉会館でした。

《岡本委員》

学校・東部公民館などはどうですか。

《部会長》

東部の方は、家庭教育講座などには結構熱心に参加はされていますね。

向小金地域の方は、柏市が近いので柏市の支援センターに行かれている方が多いですね。

《手塚委員》

東部地域はどうしたら人がくるのでしょうか。

《事務局》

絶対数が違うということもありますね。

《部会長》

ターゲットをどの様にするかによって違ってきますよね。

《事務局》

ニーズ調査の守備範囲と同じように考えていて、就学前・学童の保護者ですね。前回は就学前の方が多く、お孫さんを育てている方、ファミサポに登録されていて子育てを終えた方が第2位になってました。ターゲットとは違いますが、実際にはそういう方が参加されてました。

今回も基本的には就学前・学童の保護者を集めたいと思っていますが、提供者としてファミリーサポートセンターにお声掛けした時には、提供者の方の意見が集まるのではないのでしょうか。

《櫻庭委員》

中部のファミサポ提供会員は少ないですね。

《事務局》

回復しつつあるようです。

《手塚委員》

やはり、ターゲットを決めないと日程も場所も決まらず、結局、万遍無くとなりますね。

《部会長》

育ててる子どもの年代によっても意見が違って来るので、年代が違う方々の方がいいのかなと思います。ただ、ワークショップとなると、そこまできめ細かくできるのかというと、難しいような気がします。

働いている方や父親の参加も促すといった意味では休日の開催が良く、学校にお子さんを送り出した母親などは、平日の開催だと参加しやすいように感じます。つまりは、日にちの設定によって違った性質の方々の参加が望めるのではないかと考えます。

休日だと逆に家族の時間を持ちたい家庭は、参加してこない可能性もあります。

《岡本委員》

対象者が就学前と学童であれば、就学前健診時に小学校でやるのもいいのではないですか。

《事務局》

就学前を対象とした場合、保育を利用されている方は平日は来れないし、平日だったら、専業主婦の方、というターゲットの落とし込みということですよ。

《部会長》

どうですか。開催日時が増えてきてしまいますね。

《岡本委員》

4ヶ所ということですか？

《部会長》

実施場所が4ヶ所なので、すべての日程において4ヶ所を実施するとすると難しいですね。

あるいは少ない人数で小さなワークショップを実施するか、どちらかということですね。

《事務局》

補足ですが、過去、ピックアップさせていただいた施設のほうでは、ヒアリング調査を実施したので、たとえば、平日というキーワードの中で、そういう施設を使っていない方に向けて声を聞く場なんですよという位置づけでやるというのも一つのヒントになるのかなと感じます。

《岡本委員》

日程は、3月30日と4月13日にしますか。

《事務局》

事務局でもう少しターゲットを絞って、その中で平日の候補日も検討します。

《部会長》

地域の特性に応じて、対象にする年代を変えてもいいのかなと思います。

中部・南部は小さいお子様をターゲットにして、東部・北部は学童というやりかたもあるのかなと思います。

その点については事務局で揉んで頂いてからでいいでしょうか。

《各委員》

はい

《部会長》

それに合わせて、委員の進行役については、当日出席された委員の方をお願いします。

《事務局》

南部・中部が多く、東部・北部が少ないので、グループ分けについても調整していただきたいです。

《部会長》

子育て会議委員は参加することになっていますが、人手が足りない場合には関係各所の方々にご協力をして頂くということは可能ですか。

《事務局》

はい。皆様のお力を借りることができれば可能かと思います。

市が主導するわけではなくて、会議の中で決めて頂くことかと思います。当然、市側も参加はします。

《部会長》

活動しようとしている方にお声掛けして、出てきて頂けるようにして頂けると色々意見が聞けるかなと思います。

《事務局》

マッチングという部分で、活動したいと思っている方が来ていただいたときに、どのように合わせていくんでしょうか。

《手塚委員》

参加者がどんな人なのかを知るだけでもいいです。

地域の情報が拾えないので、こう意識を持っている方がこういう活動をしているということが分かるだけでもいいです。この会議に参加して一番驚いたのは、事業一覧を見た時でした。こんな事業をやっていることを知る入口になるだけでもいいです。

具体的にやっていることを紹介するのもいいです。



支援者をターゲットにするのであれば、異業種交換会などが集まりやすいです。

《部会長》

前回は参加者を募るのに苦労していたような気がします。

前週に産業博があるので、そこにブースを出すのもいいかもしれません。

ワークショップも広報に乗っただけでは分かりにくいです。最近では新聞を取っていない若い方が多いので、広報自体、手に入らないし、HPも見づらいのでイベント等で告知して来てもらうという方法も考えたほうがいいです。

《櫻庭委員》

支援する側とされる側がいるところで実施するようになるのですか。

《部会長》

アドバイスのことは言えると思いますが、主旨と違ってきてしまうので、どうしても支援者側の意見が強くてできてしまう可能性はあるかなと思うので、その辺りはどうかなあと思います。

《櫻庭委員》

今、子育て真最中の方々が、どんな流山だったら子育てしやすいかという意見を集めるには、支援センター等に集まってこられる方へのミニWSで意見を集めて、支援する人たちが4ヶ所の地域に分かれてというのであれば、集まっている人たちが別々なので、意見を伺いやすいのかなと思ってみたり、両方の意見を聞くことも大事なのかなと思ってみたり、その辺りをどういう風にしたらいいのかなと思います。

《手塚委員》

来た方に、今回はどういう意見で来たのかアンケートを取ってもらって、席を分けてみるのはどうでしょうか。

《岡本委員》

支援をする方はどんな方がくるのでしょうか。

《手塚委員》

コミュニティナースの方や復職後退職の方が復帰しやすくするため、どうやって過ごすかという勉強会をしたり、子どもの病気のことなどを話し合った

り色々いらっしゃいます。

そういう方は課題に意識をもっていて活動しているので、意見は出してくると思います。

《岡本委員》

新たなものを取り入れるということをこの WS の中から引き出せばいいと思います。

行政側と委員とで引き出せていければいいですね。

《事務局》

課題を出してもらって、自分の意見では答えがでなかったものに対して、他の方から答えをもらうという部分もあるのかなと思います。

意見に強い弱いはあると思いますが、自分が出した意見に対しては、ある程度答えがもらいたいという考えで出されています。

《手塚委員》

それぞれが記入するのであれば、意見として強い弱いがあってもフォローすることによって守られるのであれば、ターゲット以外の方が来てもどうにかなるのではないのでしょうか。

《事務局》

自分の中での課題と社会的課題と二つの視点で前回は出されていたので、ハード面・ソフト面の部分でこういう事業はないのかという二つがあったので、仮に知識がなくても自分の思いは出せているようには見えました。

《部会長》

まず参加してもらうことが大事です。分かりあってる関係の中での意見しか出てこないの、そうじゃない方がいいと思います。そうすると、切り口を変えて平日に声を掛けるのもいいのではないのでしょうか。そこは検討して頂きたいです。

《手塚委員》

気軽に行きやすい場所で実施すれば、人数も増えるのではないのでしょうか。3月末なら少し暖かくなるので、外でも出来るのではないのでしょうか。

ボードに意見を貼っていくなど構えないで、意見が言えるようなやり方がいいと思います。

携帯で参加できるようなものであれば参加したいが、2、3時間のワークショップとなると参加する理由が見つからないと思います。

活動していて繋がりたいとか、よほど言いたいことがある方じゃないと、参加しないのではないのでしょうか。

#### 《事務局》

意見を交わしていくというよりも、不特定多数に対して不特定多数で答えていくということですか。

#### 《手塚委員》

ここ数年、対面でミーティングをすることがないので、集合会議で束縛されるということに対するストレスを感じます。拘束されている感じがします。

#### 《部会長》

仕事をしていなくて孤立感を持っている方は、人との関わりを求めて支援センターに行くような状態です。

#### 《岡本委員》

やり方を工夫して意見を求めるというのはいいことですね

#### 《手塚委員》

ターゲットに戻ってしまいますが、家で見ている人と色々な人に助けられている人の2パターンがあると思います。日々忙しくしている人達のために休日開催して参加してもらいたいのではないのでしょうか。

#### 《事務局》

前ははどうやって意見を集めようかという部分で出来ていったものなので、今回のやり方については、今の時代にあったやり方に変えていくことが意見は出しやすいと思います。成果をどういう風に出していくかということもありますが、やり方としてはできるかと思います。

南部・中部はそういうやりかたをし、東部北部については動員をかけるなど2パターンは可能ですね。

成果の部分で、パブリックコメントやHP・市の広報等を見てくださいという頼みの部分はでてくるかと思いますが、意見のもらい方としては良いのではないのでしょうか。

《櫻庭委員》

アンケートを取るだけじゃなくて、市として活動のアピールにもなりますね。

《岡本委員》

支援センターの中だけで実施するよりも、オープンにした方がいいのではないのでしょうか。

《櫻庭委員》

費用の面は大丈夫ですか？

《事務局》

場所によりますが、広場は都市広場なので市の占有許可になりますので、使えるかなと思います。

《部会長》

- ・皆さんからの頂いた意見として、
  - ・地域によってやり方を変えていくことも検討して頂く。
  - ・日程もそれに合わせて可能な日程があるかどうか決めて頂く。
  - ・子育て会議委員も参加して意見を聞いてもらう。
- では、事務局で揉んで頂いて、次回の本会議に意見を出して頂くということではないですか。

《各委員》

はい

《手塚委員》

一点いいですか。提案としてセブンイレブンと市が提携しましたよね。そのような場所で実施するのは可能ですか。

《事務局》

来た方に意見を聞いていくということでしょうか。

おたかのセブンイレブン内に全国初の赤ちゃんほっとスペースを設置しています。

《手塚委員》

公開してやっているとなると、セブンイレブン側にも一つの活動 PR になり

ます。多くの意見が集まらなくても、興味を持って下さる人が増えるという意味ではいいのではないのでしょうか。

《事務局》

先日、子どもの貧困のフォーラムがあって参加したのですが、セブンイレブン側から、「我々に何をやってもらいたいかということを経営側から言って頂ければ、採算性のことはあるにせよ、協力できるところは出来る」ということでした。

《手塚委員》

企業目線だと思います。ビジネスの種として包括を結んでいるわけで、企業アピールもできます。来店された方に WS やりましょうくらいの感覚でできると思います。

《事務局》

実際、実施できるかということ、イトインコーナーでオープンにして意見を貼ってもらうということですね。

《手塚委員》

参加してもらうことに意味があります。

《部会長》

1つの提案として挙げてみましょう。

《手塚委員》

今はセブンイレブンだけですか。

《事務局》

コンビニは、セブンイレブンだけですが、既に銀行とも締結しています。

切り口が地方創生というところから入っているので、子ども関係やツーリズム関係などが幅広く協力していきましょうというところですね。

《部会長》

自分たちで何とかしなければいけないと思いがちなので、新しい視点で指摘して頂くといいですね。

事務局にはお手数をお掛けしますが、宜しくお願いします。

では、今日はこれで閉会にします。